

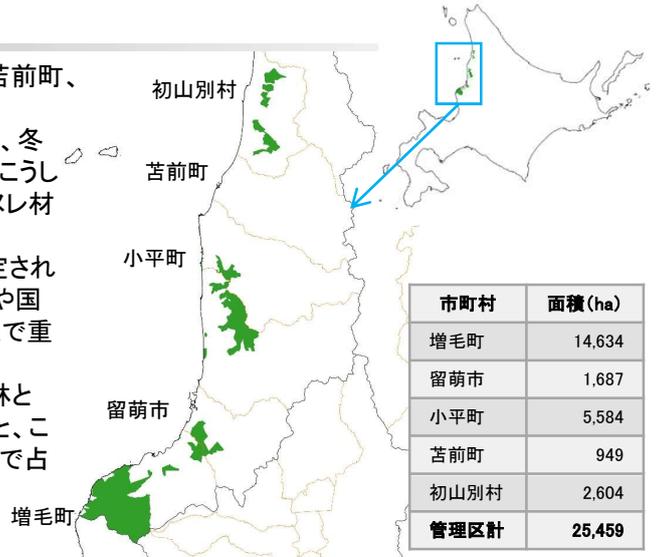


# 北海道有林野 整備管理計画（留萌管理区）の概要



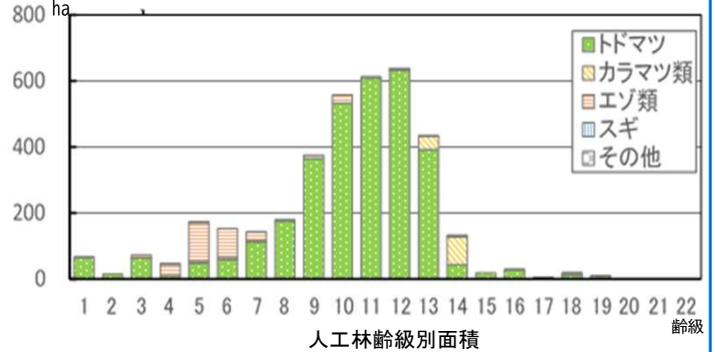
## 管理区の概要

- ・当管理区は、北海道の北西部に位置し、増毛町、留萌市、小平町、苫前町、初山別村の1市3町1村に所在しています。
- ・気候は、秋から冬にかけて日本海側特有の北西からの季節風が強く、冬期間は、日常生活はもとより、樹木の生育にも厳しい環境にあります。こうした気象条件と粘土質の土壌が多い地域性から、成長の劣勢やアテ、ヌレ材が多いなどの特徴も有しています。
- ・森林は、ほぼ全域が水源かん養、土砂流出防備などの保安林に指定されているほか、南部には「暑寒別天売焼尻国定公園」が広がり、水資源や国土保全、保健・文化などの森林を有する公益的機能の高度発揮のうえで重要な位置付けにあります。
- ・森林面積は約25.5千haであり、そのうち79%が天然林、15%が人工林となっています。天然林は、ミズナラ、カエデ類、カンバ類等の広葉樹林と、これらの広葉樹とトドマツの混交林で構成され、人工林は大半がトドマツで占められています。



## 多様で先導的な森林づくりに係る取組

- ・人工林の齢級構成は、主伐期を迎えた11 齢級以上の面積割合が全体の51% (1.9 千ha) を占めており、早急な主伐及び更新が必要となっています。一方で造林や保育を行う担い手の不足が課題で、必要な主伐や植栽が難しい状況ですが、造林量の増加に対応するため、緩傾斜地では機械地拵えとし、コンテナ苗を導入する等効率的な施業を図ることとします。
- ・天然林は、疎開した林分が大半を占めており、時間をかけて森林資源の回復を図る必要があるため、当面の間、伐採等は行わず自然の推移に委ねることとし、公益的機能の充実を図っていくものとします。なお、天然林植込み林分の植栽木については、成長を促すために間伐を実施します。



### ○目標の指標

【育成単層林・育成複層林・天然生林別面積(単位:ha)】

森林の区分に応じた適切な森林の整備や保全の実施により、多様な樹種や林齢からなる森林の育成を目指します。

区分	令和元年度	令和13年度
育成単層林	3,332	2,593
育成複層林	2,806	3,545
天然生林	19,320	19,320

### ○計画量

【伐採材積】 (単位:千m <sup>3</sup> )			【更新面積】 (単位:ha)			【路網開設】 (単位:km)		
区分	前期	後期	区分	前期	後期	区分	前期	後期
主伐	43.0	47.0	人工造林	109 (147)	108 (125)	林道	-	-
間伐	26.3	25.5	天然更新	- (-)	- (-)	林業専用道	3.1	-

※括弧内の数値は区域面積

## 資源や技術力を活用した地域貢献に係る取組

- ・傾斜が緩やかな人工林伐採跡地では機械地拵えを進め、植栽が容易なコンテナ苗を活用して、効率的に植栽を実施するほか、成長が早く野鼠被害に強いグイマツ雑種F1の植栽を推進します。間伐については、機械による効率化やかかり木の発生抑制や安全に処理が可能となる列状間伐を推進します。
- ・機械の導入や雇用の確保に取り組む地域の林業事業者を育成するため、安定的な事業量の確保及び計画的な発注に努めるほか、計画的な雇用の確保や設備投資を促進するため、林業事業者と協定を締結し、複数年にわたって連携して造林や保育、伐採などの森林整備に取り組みます。
- ・道有林の木材を伐採し製材工場等に供給する事業者が、適期に適量の原木を製材工場等に供給できるよう、立木で販売することとし、地域の木材需給の動向を踏まえ、適切なロットで販売するよう努めます。
- ・技術研修会等により、森林の整備に関する基礎的な知識・技術を幅広く習得させ、若手職員の育成を図ります。
- ・道有林のフィールドを積極的に活用し、木育マイスターや教育機関等と連携した自然観察会や森林体験学習を進めます。



大型機械による地拵え

### ○目標の指標

【森林づくりに伴い産出される木材の量】

道民生活に木材・木製品の利用が定着し、道有林の森林づくりに伴い産出される木材が有効に活用されることを目指します。

